

卒業の日に

矜恃ある人生を

文学部長
宇野の
茂彦 しげひこ

ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこの自然に恵まれたキャンパスを巣立って、いよいよ実社会に羽ばたいていこうとされています。大学での勉強は必ずしも実社会ですぐに役立つような知識や技能ではないですし、そもそも人は学校だけでできあがるものでもなし、社会に出るから自己研鑽は必要なことです。「君子は器ならず」といいます。

「君子は器ならず」といいます。一方の用途にだけしか役に立たないのは本当の人間ではありません、それは単なる器械でしょう。技術や知識は必ず古びるものであって、それを常に新たにしていくのが、人の知恵というもの。そのような根本的な思考の基礎を皆さんは身に付けたはずだと思います。

実社会では時として思うようにい

かない事態に遭遇します。その際、決してくじけることなく培った知力で乗り越えていって頂きたい。そのためには、まずは矜恃をもつことが大事かと思えます。物事はたいてい内部から崩れるのです。韓非子は国家は五蠹によって崩れる、すなわち白蟻のような内側から蝕む存在によつて国家さえも崩壊すると言いますが、個人も同じことで、矜恃を失つて自暴自棄になることが尤も忌むべきことです。

孟子は「仰いで天に愧ぢず、俯して人に忤ぢざるは、君子の楽しみ」と言っていますが、これは自信がゆるがない最良の方策です。本当にそのような生活を送ることができたら、どんなにか幸せでしょう。そのような未来を目指して矜恃ある人生を送って頂きたいと願います。